

子ども感染症教室 in 対馬 ～正しい知識で感染症から身を守ろう！～

○森保 妙子^{1,2}、嶋田 聡^{1,3}、今西 望^{1,4}

【目的】

感染症にはさまざまな感染経路があるが、正しい知識を得ることで感染症から身を守り、また、感染拡大を防ぐことが可能である。対馬では2016年9月に日本脳炎の感染が4例報告されその流行が懸念されているが、聞き取り調査をしたところ、住民の蚊や蚊媒介感染症に対するリスクの認知は十分ではなかった。そこで我々は、感染症の中でも蚊媒介性感染症に注目して「蚊と蚊がもたらす病気を知ろう！」というテーマでワークショップを開催し、子ども達のみならず地域住民全体の蚊媒介感染症に対するリスク認知を高め、地域全体で感染症対策に取り組むきっかけを作ることを目的とした。

【方法】

対馬市の3小学校、1中学校を訪問し、全校生徒と教職員・保護者を対象として蚊および蚊媒介感染症に関するワークショップを行った。ワークショップ開催前後には、生徒を対象にアンケート調査を実施し（総数126件）、蚊と蚊媒介感染症に関する知識や予防に関する行動の変容を質的に評価した。上県行政サービスセンターと対馬病院では、子ども達だけでなくすべての近隣住民を対象としたワークショップを開催した。また、対馬南部における蚊媒介性感染症のベクターとなる蚊の生息状況を知るために、2017年7月12日、13日および9月26日の夜間に、誘引源としてドライアイス1kgを併用したCDC型ライトトラップを用いて成虫蚊の捕集調査を行った。

【結果】

アンケート調査の結果、蚊は最も身近な害虫であるにも関わらず、事前調査では5人に1人しかその正しい生活環を答えることができなかったが、ワークショップ後にはほぼ全員に正しい情報が定着していた。蚊に関連する単語の連想においては、事前調査では310単語のうち12語のみが感染症リスクに関連していたが、事後には59語に増加した。また、ワークショップ後に自発的に蚊忌避剤を利用するようになった子ども達のうち、11人はその記録を取って報告してくれた。捕集調査では、5属10種、計515頭の蚊が捕集された。種構成比では、キンイロヤブカが捕集蚊全体の約84%を占め、コガタアカイエカ（4%）とシロハシイエカ（4%）がそれに次いだ。今回の調査で得られた種は、いずれも日本国内に広く分布する種であった。日本脳炎媒介能が知られているコガタアカイエカ、シロハシイエカ、カラツイエカは日本脳炎ウィルスの保有調査を行い、すべて陰性であった。

【考察】

蚊と蚊媒介感染症に関する知識の向上という点に関しては、アンケート調査の結果からも、今回の目的は十分に果たされたと言える。ワークショップは、エンターテイメント教育の理念に基づいた構成になっており、これが子ども達の知識の定着に貢献したと考える。今後の課題として、さらに地域全体に知識の定着を図り、それを実際の予防行動に結び付けられるかということがあげられるが、そのためには今後さらに継続して地域に働きかける必要があるだろう。

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程教育リーディングプログラム

2 長崎大学熱帯医学研究所寄生虫学分野

3 長崎大学熱帯医学研究所ウィルス学分野

4 長崎大学熱帯医学研究所病害動物学分